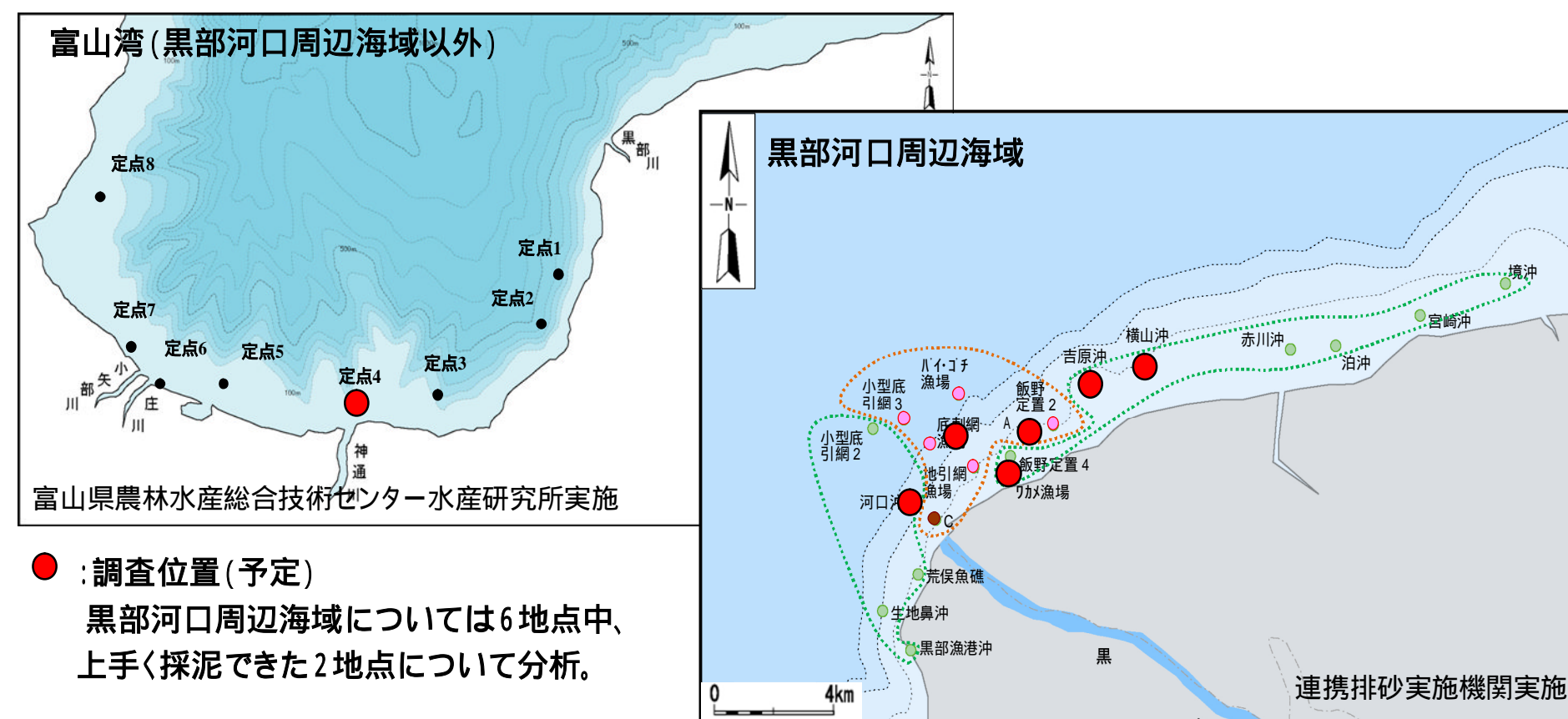
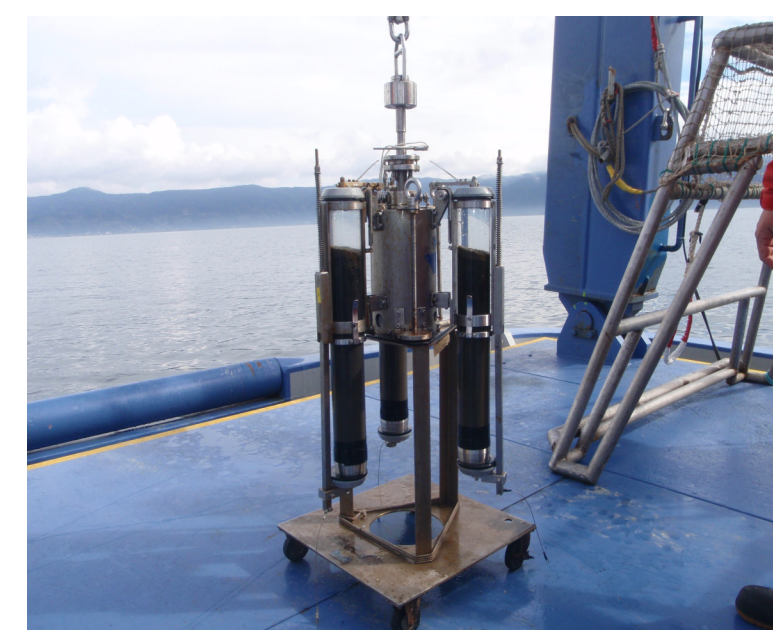


理由	平成22年度において、黒部川河口海域の底質調査結果を、富山湾と比較するとともに、排砂実施前の調査結果と比較・分析した。富山湾全体と比べ、COD及び強熱減量、硫化物相対的に値が低く、また過年度の調査結果と大きな違いはなかった。しかし、分析試料の採取方法や調査地点に若干の違いがある可能性があるため、追加調査を行うものである。
目的	柱状採泥を行い、層別の分析を行うことで初回排砂以前と以降での堆積層の変化を調査する。
方法	採泥器を用いて、柱状採泥を行い、底質サンプルを採取する。採取したサンプルを1cm毎に層状に分割し、分析を行う。
調査時期	春季または夏季 (海が平穏な時期に実施する)
調査項目	堆積年代推定 : 鉛210、セシウム 性状把握 : 強熱減量、硫化物、COD、粒度組成、含水率、炭素、窒素

調査位置



採泥器(例)



船上から採泥器を垂下し、海底泥を採取する。採泥器の採泥管が着底し、回収時に上下の蓋が閉じる仕組みになっている。

		調査				分析		
						分析内容	分析概要	
H7	定期 底質調査 20地点	河川より流入する土砂が海域底質に及ぼす影響を把握・評価するために調査を行う。						
H12		底質調査 30地点	底質調査 23地点	ロボット調査				
		連携排砂前の海域の広範囲な環境を把握する。						
H13			底質調査 23地点	底質調査のみ 継続(3地点)	底質調査 8地点(漁連要望)			
		平成13年度連携排砂前の海域の広範囲な環境を把握する。						
H16			黒部川・小川・笹川の出水後、河口付近に堆積する土砂を分析し、無機主要元素の割合を把握する。			無機 元素組成	クラスター 分析	【まとめ】・河川毎に無機元素構成比の類似度が高くなっている。 ・ダム及び河川で採取した試料もあわせて分析すると、河川毎にクラスター分析されず、海域底質の起源を特定するには至らなかった。
H17							調査手法 比較	【まとめ】・富山県水産研究所と排砂実施機関の分析サンプリングに違いがあるため、同時期にサンプリングし、調査結果の比較を行った。 ・結果に大きな差はなかった。
H18		底質調査 30地点	底質調査 23地点				H12年との 比較	【まとめ】・H12年とH18年の調査結果を比較した。 ・CODと強熱減量についてはH18年の方が相対的に低く、窒素については深いところでH18年の方が高かった。ORPはH18年の方が高かった。
H21		県漁連と共同で、富山湾全体の底質状態を把握する。					長期分析	【目的】長期データを分析し、評価の一助とする。 【まとめ】・黒部川河口海域を3海域に分類した。 ・富山湾全体と黒部川河口海域と比較を行った。 ・排砂実施前のデータと比較を行った。
H23				柱状サンプリングし、初回排砂以降とそれ以前での底質性状の変化について調べる。		底質性状 変化	性状変化	平成23年度分析を実施する。